

麻機遊水地1工区魚類調査

報 告 書

平成26年10月

ビオトープ協会 静岡県支部

魚類調査

目的

麻機緑地の造成工事に伴う、魚類調査。
現在生息している生き物について調査を行い、今後造成を行う中で環境がどのように変化するのか経過を観察するべく、捕獲・同定を行う。

(1) 用水路の環境 〈H26年9月18日調査〉

- ①水路のほとんどは田畑に囲まれている。
- ②水生植物
オオカナダモの生育が確認できた。
- ③魚類
シマドジョウ、ホトケドジョウ、オイカワ、メダカ、タイリクバラタナゴ、モツゴ、ミナミヌマエビが生息している。

(2) 現地調査の状況 〈H26年10月25日〉

① 1地区

調査時間9時30分 気温26.1℃ 水温19℃ 捕獲時間30分



捕獲の状況



調査用具(タモ網2本、ヨツ網1つ)

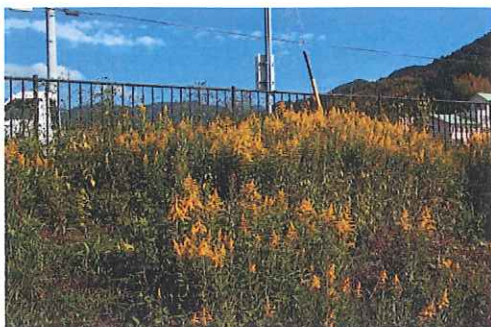


捕獲個体数確認

※容器の魚類はすぐに放流した。

	個体数
①タイリクバラタナゴ	28
②ウシガエル幼生	20
③オイカワ	17
④アメリカザリガニ	7
⑤ミゾレヌマエビ	5
⑥カダヤシ	4
⑦ヒメタニシ	3
⑧ヌマムツ	2
⑨トウヨシノボリ	1
(池沼型)	
⑩メダカ	1
⑪ドジョウ	1
⑫モツゴ	1

周辺環境



セイタカアワダチソウ



ミゾソバ

池の周辺を囲むように、ミゾソバが生えている。ミゾソバは、用水路脇など、水が豊かで栄養価が高めの場所に群生していることが多い。

② 2地区

調査時間9時30分 気温25.5℃ 水温18℃ 捕獲時間30分



捕獲の状況

捕獲個体数確認
※容器の魚はすぐに放流した。

	個体数
①ヤゴSP	6
②アメリカザリガニ	4
③モツゴ	3
④ミズカマキリ	3
⑤スジエビ	2
⑥ヒメガムシ	2
⑦カダヤシ	1

③ 3地区

調査時間9時30分 気温24.8℃ 水温22℃ 捕獲時間30分



捕獲の状況



タコノアシ

捕獲個体数確認
※容器の魚はすぐに放流した。

	個体数
①ミゾレスマエビ	23
②モツゴ	20
③ヤゴSP	8
④アメリカザリガニ	5
⑤カダヤシ	3
⑥コマツモムシ	2
⑦ウシガエル幼生	1
⑧メダカ	1
⑨ヒメタニシ	1
⑩ドジョウ	1
⑪トウヨシノボリ	1
(池沼型)	
⑫スクミリンゴガイ	1

オニバス繁殖時の遊水地の様子

〈H26年9月29日〉



オニバスは、夏に水面を覆ってしまうほど繁殖し、冬になるとその葉が池底に沈んで環境が悪化してしまう。

調査地区の結果

地区名		1地区	2地区	3地区	個体総数
科名	種名	個体数	個体数	個体数	
コイ	タイリクバラタナゴ	28	0	0	28
	モツゴ	1	3	20	24
	オイカワ	17	0	0	17
	ヌマムツ	2	0	0	2
アカガエル	ウシガエル幼生	20	0	1	21
ヌマエビ	ミズレスヌマエビ	5	0	23	28
アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	7	4	5	16
テナガエビ	スジエビ	0	2	0	2
ヤンマ	ヤゴSP	0	6	8	14
カダヤシ	カダヤシ	4	1	3	8
タニシ	ヒメタニシ	3	0	1	4
タイコウチ	ミズカマキリ	0	3	0	3
ハゼ	トウヨシノボリ(池沼型)	1	0	1	2
メダカ	メダカ	1	0	1	2
ドジョウ	ドジョウ	1	0	1	2
半翅目 マツモムシ	コマツモムシ	0	0	2	2
ゲンゴロウ	ヒメガムシ	0	2	0	2
リンゴガイ	スクミリンゴガイ	0	0	1	1

(3) 補足調査と考察

本調査では生息が確認できなかったホトケドジョウは、上流域で確認することができた。
また、1地区においては比較的上流域と似たような魚類が生息しており、
他の地区よりも重要種が住みやすい環境であった。

2・3地区においては、止水域であるため夏に成長したオニバスの腐葉物が河床の泥上に
被さったままになり、水質が悪化する原因の一つとなっている。

現在、オニバスは環境省レッドリストで、絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。
麻機遊水地においても、オニバスの鑑賞会を行うなどの活動を行っており、今後どのように
共存していくのが重要な課題である。

そのため、次回は魚類調査に加えて、水質や沈殿物についても調査する必要がある。

(4)魚介類標本

タイリクバラタナゴ



トウヨシノボリ



オイカワ



モツゴ



ドジョウ



麻機遊水地1工区 水系全体図



魚類 現地調査票 1

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
—	静岡土木事務所	巴川	麻機遊水地	2014

調査地区	地区番号	地区名	距離(km)	総合調査地区	河床勾配	セグメント区分	感潮の有無	汽水城の有無	河川形態
	①	北側水路	—	1工区	1/100		無	無	

調査環境(調査対象環境区分)

調査対象環境区分	区分番号	区分名
	3	ワンド・たまり

物理環境	流速(cm/s)	河底材料	礫の状況	水深(cm)	水温(°C)
	—	泥	不明	73(奥側)	19

水際の 状況	護岸等					根固め			草本				木本					裸地											
	コンクリ護岸	鋼矢板	カゴ工	捨石工	木工	そだ工	その他	コンクリブロック	木工沈床	そだ沈床	その他	抽水	浮葉	沈水	浮遊	ヨシ類	その他	ヤナギ低木	ヤナギ高木	低木	広葉樹	針葉樹	竹林	根茎	岩盤	崖	石礫地	砂礫地	砂泥地
																	90												10

調査結果

調査時の状況	調査回	季節	調査年月日	調査時刻	調査時間(時間)	天候
	1	秋	2014年10月25日	9:30 ~ 10:00	0.5	晴れ

調査方法	調査方法	漁具等の規格	努力量	備考
	手網	タモ網50cm2本、ヨツデ網1m×1m1つ	1人×1時間	

確認状況	和名	重要種	特定外来生物	写真	標本	個体数合計	体長(cm)		備考
							最大	最小	
	タイリクバラタナゴ		○	○		28			
	ウシガエル幼生			△		20			オタマジャクシの写真有り
	オイカワ			○		17			
	アメリカザリガニ		○			7			
	ミゾレヌマエビ			○		5			
	カダヤシ			○		4			
	ヒメタニシ					3			
	ヌマムツ			○		2			
	トウヨシノボリ	○		○		1			池沼型
	メダカ					1			
	ドジョウ					1			
	モツゴ			○		1			

特記事項	参加会社 (株)西野造園、(有)森荘造園、不二見造園土木(株)、 (有)飯田庭園、(株)森造園、信建工業(株)、(株)静岡グリーンサービス、 (株)藤浪造園	項目	氏名	所属機関
		調査責任者	櫻井淳	(株)静岡グリーンサービス
		調査担当者	藤浪義之	(株)藤浪造園
		同定者	大塚善弘	(株)静岡環境検査センター

※1: 現地調査時の水際線全体に占めるそれぞれの区分の割合を10%単位で記録する。10%に満たない小規模な区分には+の印をつける。

魚類 現地調査票 2

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
	静岡土木事務所	巴川	麻機遊水地	2014

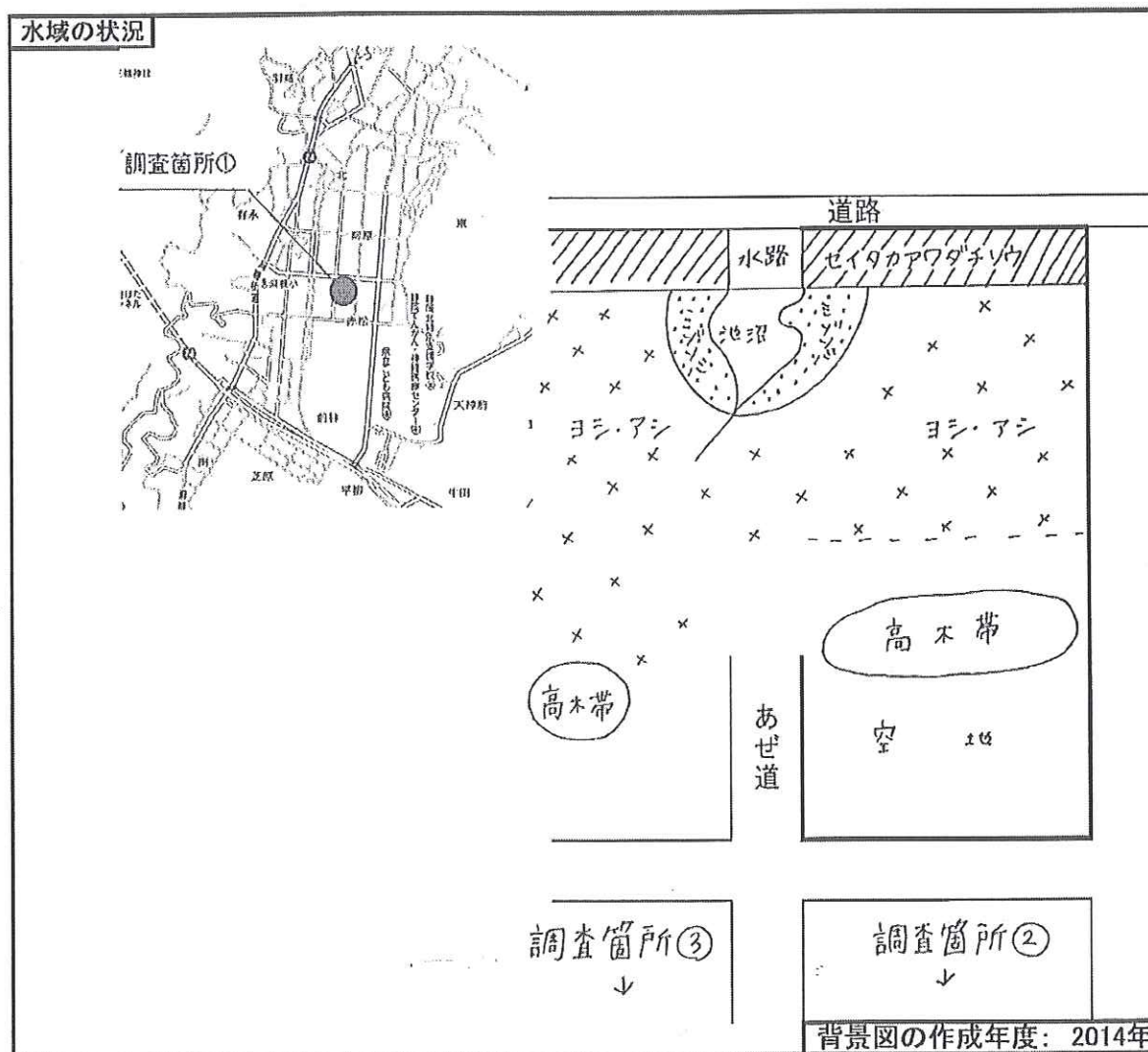
調査時期	調査回	季節	調査年月日
	1	秋	2014年10月25日

調査地区	地区番号	地区名	距離(km)	総合調査地区	河床勾配	セグメント区分	感潮の有無	汽水城の有無	河川形態
	①	北側水路	—	1工区	1/100		無	無	

調査環境(調査地区)

水際の 状況	護岸等					根固め				草本				木本					裸地									
	コンクリ 護岸	銅矢板	カゴ工	捨石工	木工	その他	コンクリブロック	木工沈床	そだ沈床	その他	抽水	浮葉	沈水	浮遊	ヨシ類	その他	ヤナギ低木	ヤナギ高木	低木	広葉樹	針葉樹	竹林	根茎	岩盤	崖	石礫地	砂礫地	砂泥地
																90												10

水域の状況



※1: 現地調査時の水際線全体に占めるそれぞれの区分の割合を10%単位で記録する。10%に満たない小規模な区分には+の印をつける。

魚類 現地調査票 1

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
一	静岡土木事務所	巴川	麻機遊水地	2014

調査地区	地区番号	地区名	距離(km)	総合調査地区	河床勾配	セグメント区分	感潮の有無	汽水城の有無	河川形態
	②	南側池1	—	1工区	1/100		無	無	

調査環境(調査対象環境区分)

調査対象 環境区分	区分番号	区分名
	3	ワンド・たまり

物理環境	流速(cm/s)	河底材料	礫の状況	水深(cm)	水温(℃)
	—	泥	不明	35	18

[illegible]

調查結果

調査時の 状況	調査回	季節	調査年月日	調査時刻			調査時間(時間)	天候
	1	秋	2014年10月25日	11:30	~	12:00	0.5	晴れ

調査方法	調査方法	漁具等の規格	努力量	備考
	手網	タモ網50cm2本、ヨツデ網1m×1m1つ	1人×1時間	

[illegible]

特記事項	参加会社 (株)西野造園、(有)森荘造園、不二見造園土木(株)、 (有)飯田庭園、(株)森造園、信建工業(株)、(株)静岡グリーンサービス、 (株)藤浪造園	項目	氏名	所属機関
		調査責任者	櫻井淳	(株)静岡グリーンサービス
		調査担当者	藤浪義之	(株)藤浪造園
		同定者	大塚善弘	(株)静環検査センター

※1: 現地調査時の水際線全体に占めるそれぞれの区分の割合を10%単位で記録する。10%に満たない小規模な区分には+の印をつける。

魚類 現地調査票 2

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
	静岡土木事務所	巴川	麻機遊水地	2014

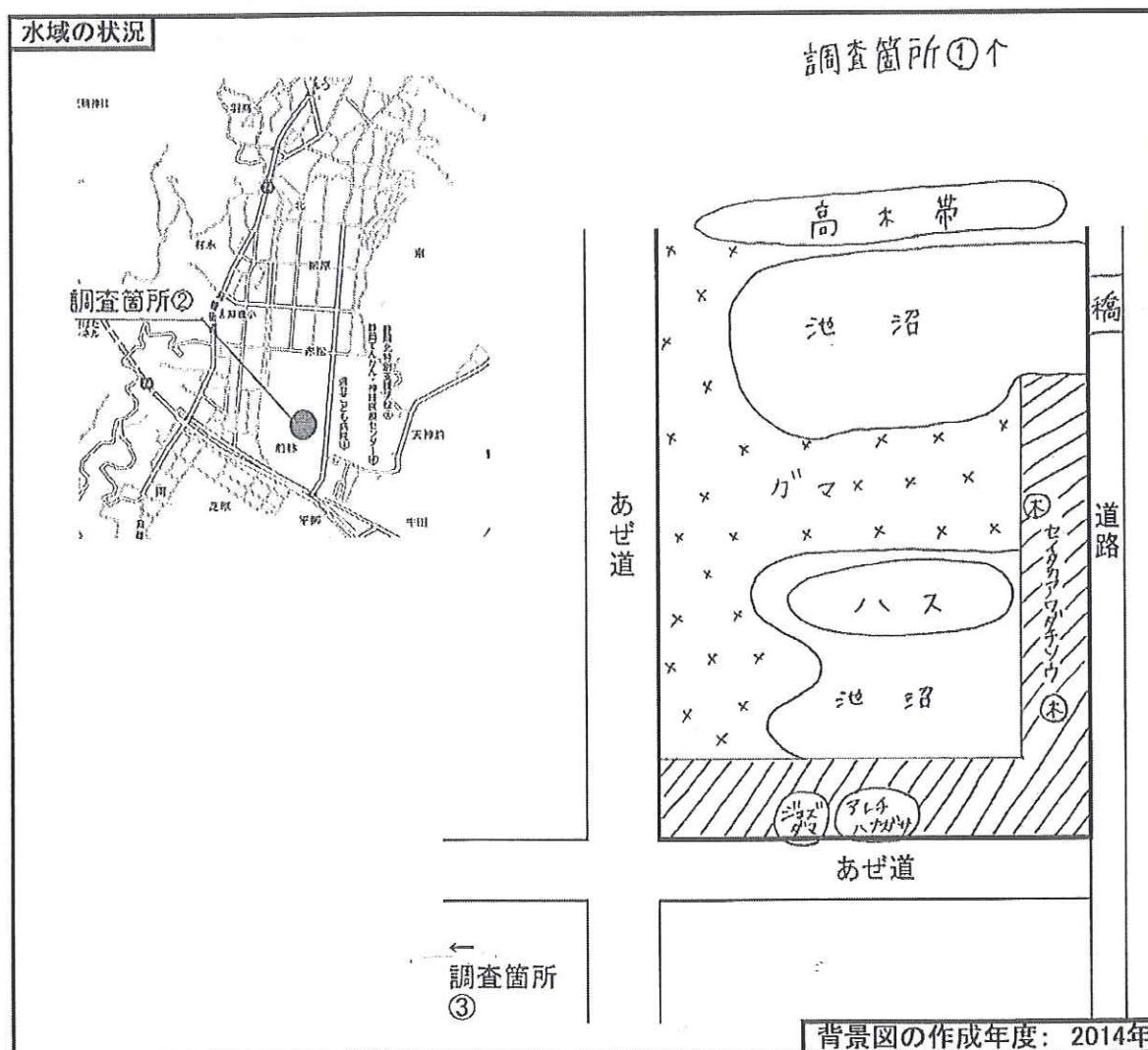
調査時期	調査回	季節	調査年月日
	1	秋	2014年10月25日

調査地区	地区番号	地区名	距離(km)	総合調査地区	河床勾配	セグメント区分	感潮の有無	汽水城の有無	河川形態
	②	南側池1	—	1工区	1/100		無	無	

調査環境(調査地区)

水際の 状況	護岸等						根固め				草本					木本					裸地								
	コンクリ護岸	銅矢板	カゴ工	捨石工	木工	そだ工	その他	コンクリブロック	木工沈床	そだ沈床	その他	抽水	浮葉	沈水	浮遊	ヨシ類	その他	ヤナギ低木	ヤナギ高木	低木	広葉樹	針葉樹	竹林	根茎	岩盤	崖	石礫地	砂礫地	砂泥地
												60	20																20

水域の状況



※1: 現地調査時の水際線全体に占めるそれぞれの区分の割合を10%単位で記録する。10%に満たない小規模な区分には+の印をつける。

魚類 現地調査票 1

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
—	静岡土木事務所	巴川	麻機遊水地	2014

調査地区	地区番号	地区名	距離(km)	総合調査地区	河床勾配	セグメント区分	感潮の有無	汽水域の有無	河川形態
	③	南側池2	—	1工区	1/100		無	無	

調査環境(調査対象環境区分)

調査対象環境区分	区分番号	区分名
	3	ワンド・たまり

物理環境	流速(cm/s)	河底材料	礫の状況	水深(cm)	水温(℃)
	—	泥	不明	23	22

水際の 状況	護岸等					根固め			草本					木本					裸地											
	コンクリ護岸	鋼矢板	カゴ工	捨石工	木工	そだ工	その他	コンクリブロック	木工沈床	そだ沈床	その他	抽水	浮葉	沈水	浮遊	ヨシ類	その他	ヤナギ低木	ヤナギ高木	低木	広葉樹	針葉樹	竹林	根茎	岩盤	崖	石礫地	砂礫地	砂源地	
												60	20																20	

調査結果

調査時の状況	調査回	季節	調査年月日	調査時刻			調査時間(時間)	天候
	1	秋	2014年10月25日	10:45	～	11:15	0.5	晴れ

調査方法	調査方法	漁具等の規格	努力量	備考
	手網	タモ網50cm2本、ヨツデ網1m×1m1つ	1人×1時間	

確認状況	和名	重要種	特定外来生物	写真	標本	個体数合計	体長(cm)		備考
							最大	最小	
	ミソレヌマエビ			○		23			
	モツゴ			○		20			
	ヤゴSP			○		8			
	アメリカザリガニ		○			5			
	カダヤシ			○		3			
	コマツモムシ			○		2			
	ウシガエル幼生			△		1			オタマジャクシの写真有り
	メダカ					1			
	ヒメタニシ					1			
	ドジョウ					1			
	トウヨシノボリ			○		1			池沼型
	スクミリンゴガイ			○		1			

特記事項	参加会社 (株)西野造園、(有)森荘造園、不二見造園土木(株)、 (有)飯田庭園、(株)森造園、信建工業(株)、(株)静岡グリーンサービス、 (株)藤浪造園	項目	氏名	所属機関
		調査責任者	櫻井淳	(株)静岡グリーンサービス
		調査担当者	藤浪義之	(株)藤浪造園
		同定者	大塚善弘	(株)静環検査センター

※1: 現地調査時の水際線全体に占めるそれぞれの区分の割合を10%単位で記録する。10%に満たない小規模な区分には+の印をつける。

魚類 現地調査票 2

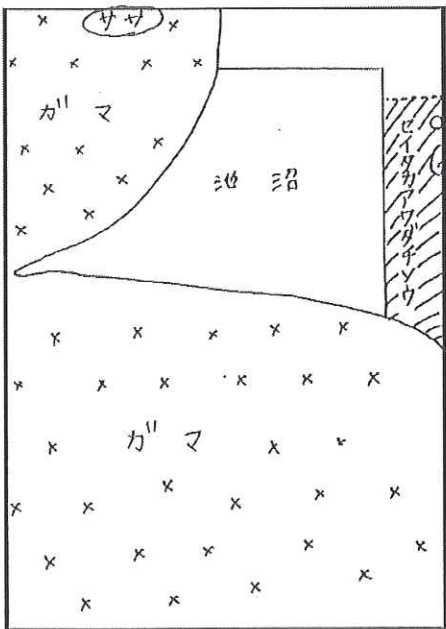
地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
	静岡土木事務所	巴川	麻機遊水地	2014

調査時期	調査回	季節	調査年月日
	1	秋	2014年10月25日

調査地区	地区番号	地区名	距離(km)	総合調査地区	河床勾配	セグメント区分	感潮の有無	汽水城の有無	河川形態
	③	南側池2	—	1工区	1/100		無	無	

調査環境(調査地区)

水際の状況	護岸等					根固め			草本				木本					裸地											
	コンクリ護岸	銅矢板	カゴ工	捨石工	木工	そだ工	その他	コンクリブロック	木工沈床	そだ沈床	その他	抽水	浮葉	沈水	浮遊	ヨシ類	その他	ヤナギ低木	ヤナギ高木	低木	広葉樹	針葉樹	竹林	根茎	岩盤	崖	石礫地	砂礫地	砂泥地
												60	20																20

水域の状況	調査箇所② →
	調査箇所① ↑ あぜ道  背景図の作成年度: 2014年

※1: 現地調査時の水際線全体に占めるそれぞれの区分の割合を10%単位で記録する。10%に満たない小規模な区分には+の印をつける。

魚類調査 参加者名簿

	会 社 名	名 前	備 考
同定者	(株)静環検査センター	大塚 善弘	
調査責任書	(株)静岡グリーンサービス	櫻井 淳	会員 ビオトープアドバイザー
調査担当者	(株)藤浪造園	藤浪 義之	会員 ビオトープアドバイザー
	(有)森荘造園	森 一延	会員 ビオトープアドバイザー
	(有)飯田庭園	飯田 泰季	ビオトープアドバイザー
	不二見造園土木(株)	佐藤 峻	会員
	(株)西野造園	杉山 拳汰	
	(株)森造園	森 康博	
	信建工業(株)	渡辺 敦	
	(株)藤浪造園	小長井 裕也	
	(株)藤浪造園	水流 知昭	
	(株)藤浪造園	宮崎 茜	会員 ビオトープアドバイザー